NEWSLETTER

CTC教育サービスの最新情報をお届けいたします



2026. 秋号

新コース
- GH-900 GitHubの基礎
- GitHubではじめるGit入門
- Nutanix Hybrid Cloud Fundamentals
- ITエンジニア向け Claude Codeで実践する業務自動化のための AIエージェント入門

特集
- 最近の新入社員と若手社員の傾向

コラム
- VCFとVVFで変わる次のITスタンダード

日本マイクロソフト社 Microsoft Top Partner Engineer Award 2026　受賞！

この度、CTCテクノロジー株式会社（以下、弊社）のMicrosoft認定トレーナー3名が、日本マイクロソフト株式会社（本社：東京都港区、以下：日本マイクロソフト）のパートナー企業の優れたエンジニアを表彰する制度である「Microsoft Top Partner Engineer Award 2026」を受賞しました。

Microsoft Top Partner Engineer Awardは、案件の実績や技術の先進性、マイクロソフトテクノロジーの普及活動などを総合的に評価し、特に優れたエンジニアを選出するものです。弊社の木村洋介インストラクター・音喜多優一インストラクター・玉城史彬インストラクターは、AI Business Solutions部門において、取り組みを高く評価いただきました。

【インストラクターの取り組み】

木村 洋介

Microsoft 365／Microsoft 365 Copilotの提案・設計力を養う擬似案件型トレーニングを実施。さらに、自社グループのMicrosoftエンジニア育成において、企画・コース開発・プロジェクトマネジメント・講師を一貫して主導したことが評価されました。

音喜多 優一

Microsoft 365 Copilotのセミナー・研修の企画、提案、講師を通じて、顧客企業の生成AI活用を支援。さらに、自社グループの新入社員研修の企画・設計・運営を担い、生成AI人材の育成に貢献したことが評価されました。

玉城 史彬

Microsoft 365 Copilotの年間トレーニングを通じて、顧客企業の活用促進とライセンス拡大に貢献。さらに、大規模研修のコンテンツ改善を主導し、継続的な研修契約の獲得につなげたことが評価されました。

今後も多様なMicrosoft関連コースのさらなる充実に加え、市場やお客様のニーズに応じた新コースを継続的にリリースし、お客様のビジネス変革を支える人材育成に一層取り組んでまいります。　https://www.school.ctc-g.co.jp/microsoft/

CTC教育サービス

IT・技術研修ならCTC教育サービス
これから学ぶ人も、資格取得を目指す人も、最適なカリキュラムを選べます。
CTCテクノロジーのオリジナルコースやベンダー認定のコースなど、800以上の公開コースを定期開催しております。Webサイトでは、様々な角度（分野/ベンダー名/プロダクト名/資格/レベル/キーワード）から検索でき、スキルアップへの最適なプランを見つけ出すことができます。
ますます活躍が期待されるエンジニアのスキルアップをCTC教育サービスは全力で応援します。

CTC教育サービス
https://www.school.ctc-g.co.jp/

新コース
ぞくぞくリリース！

最新のコースリリースをお届け！
コースの詳細・開催スケジュール・受講お申し込みは
CTC教育サービスWebサイト をチェック！
https://www.school.ctc-g.co.jp/

※記載されている内容は2026/10/28現在の情報です。

話題の Git コースぞくぞくリリース！

開催予定日
11/26
(木)～

【ハンズオン演習付き】GitHub全体を体系的に理解する、認定資格対応コース

GH-900 GitHub の基礎

（Microsoft認定トレーニング）

コースコード・価格(税込)　P500(試験バウチャーなし) ¥154,000
P500V(試験バウチャー付) ¥167,200
期間 2日間 (09:30～17:30)

このコースでは、GitHub の基本的な概念、機能、および製品について説明します。共同プラットフォームとして GitHub を使用する利点を確認し、リポジトリ管理、コミット、ブランチ、マージなどのその中核機能について学習します。学習範囲は、GitHub Copilot、Codespaces、セキュリティ、管理機能まで含まれます。
またこのコースは「認定資格: GitHub の基礎」資格取得を目指したトレーニングを実施します。講義/演習、およびスキルチェックを通して試験合格に必要な知識を身につけることができます。

CTC　P500

開催予定日
12/9
(水)～

Gitの基本操作からGitHubを活用したチーム開発まで、演習を通して学ぶ

GitHubではじめるGit入門

（CTCTオリジナルトレーニング）

コースコード NE401 価格¥154,000(税込) 期間 2日間 (9:30～17:30)

Gitを初めて使用する方を対象に、バージョン管理の考え方とGitの基本操作を学習します。
演習では、リポジトリの作成、変更内容の記録、ブランチの作成・マージ、競合の解消など、一連のGit操作を実践します。さらに、GitHubを利用したリモートリポジトリの操作やPull Request、GitHub Flowに基づくチーム開発の基本的な流れを体験します。
Git/GitHubをこれから利用する方や、チーム開発に必要な基本操作と作業の流れを身につけたい方にお勧めのコースです。

CTC　NE401

IT エンジニアのための Claude Code で AI エージェント入門

開催予定日
11/26
(木)～

ITエンジニア向け
技術業務の効率化から、仕組み化・安全運用までのClaude Codeの基本を2日間でじっくり体系的に習得

【ITエンジニア向け】Claude Codeで実践する「業務効率化」のためのAIエージェント入門

(CTCTオリジナルコース)

コースコード CLGE01 価格¥132,000(税込) 期間 2日間 (09:30～17:30)

本コースは、ターミナル操作に慣れたITエンジニアが、Claude Codeを業務効率化ツールとして「使える状態」まで習得することを目的とした2日間のコースです。単なる操作説明にとどまらず、Claude Codeの内部の仕組みまで理解した上で、日常業務の効率化と安全な自動化に活用できるようになることを目指します。

「チャットボットに質問する」から「AIエージェントに仕事を任せる」へのパラダイムシフトを体験しながら、初期設定・環境構築から、ファイル整理・データ集計・レポート化といった業務効率化のユースケース、繰り返し業務を再利用するSkills、外部ツールと連携するMCP、そしてsettings.json・権限管理・Hooks・Human-in-the-Loopといった安全運用の必須知識までを、手を動かしながら段階的に習得します。1日目は基本操作と業務ユースケース、2日目は仕組み化と安全運用に重点を置き、実務でそのまま使える形に落とし込みます。受講後は、構築したワークスペース・設定ファイル一式をそのまま業務に持ち帰れます。

CTC　CLGE01

Nutanix 認定トレーニング バージョンアップコースリリース

開催予定日
12/17
(木)

NutanixクラスタのAHV仮想化とHCIストレージの基本(AOSバージョン 7.5)

Nutanix Hybrid Cloud Fundamentals

(Nutanix認定トレーニング)

コースコード NX07 価格¥369,600(税込)　期間 2日間 (09:30～17:30)

このコースは、Nutanix を初めて利用する方を対象とした入門コースです。
スケールアウト型ストレージ技術である AOS Storage と、マルチクラウド管理インターフェースである Prism の機能を中心に紹介します。
このコースを受講することで、Nutanixクラスタの特徴、コンポーネントおよび機能の概要を把握して、学習者がNutanixクラスタの基礎的な理解を深めるのに役立ちます。

CTC　NX07

最近の新入社員・若手社員の傾向

「素直で吸収力は高い」。自ら動くためのカギは「納得感」

研修現場の声から見えたリアル



新入社員研修の現場担当者に聞きました

今年度の新入社員研修を担当した現場スタッフへのヒアリングから、
最近の若手社員に共通して見られた特徴と、強みを引き出す育成のヒントをまとめました。

対象読者
人事・育成担当者
研修企画担当者
現場OJT担当者

「最近の若手は何を考えているのか分からない」
「指示したことはきちんとやるが、自分から動こうとしない」
こうした声を、研修の現場ではよく耳にします。
本当に主体性がないのでしょうか。

今年度、複数の企業で新入社員研修を担当した方々にヒアリングを行ったところ、共通して見えてきたのは、若手社員の”素直さ”と”高い吸収力”です。
一方で、「なぜそれをするのか」「どこを目指すのか」を納得できないと、手が止まってしまう傾向も明らかになりました。

本特集では、現場のリアルな声をもとに、若手の強みを引き出す視点と、受け入れ側に求められる関わり方のポイントを整理します。

新人研修担当者の声（ヒアリングより）

> フィードバックを受けた後の改善が強い。
> 一度の指摘でしっかり理解し、次に活かす姿勢が見られます。

> 教えられたことを、まずやってみようという姿勢がある。
> 失敗を恐れず、チャレンジする意欲を感じます。

> 目的やゴールが明確になると、積極的に取り組む。
> 背景や意義を理解すると、一気に前向きになります。

ヒアリングから見えた、若手に共通する3つの特徴

素直さ

指摘やアドバイスを
まっすぐ受け止め、
改善につなげる姿勢が
強みです。

吸収力

新しい知識やスキルを
素早く吸収し、
業務に活かすことが
できます。

納得感

目的や意義に納得すると、
自ら考え行動できるように
なります。背景の共有が
行動のカギです。

ヒアリングから見えた

若手の強みを引き出す4つの視点

01 「素直さ」と「改善力」は大きな強み



教わったことを素直に受け止め、学んだ内容を吸収し、指摘を改善につなげる力は、若手の大きな強みです。分からないことは自ら調べ、他者に質問し、実際に試してみる　----「調べる・質問する・試す」を組み合わせながら学ぶ姿勢が見られます。検索や生成 AI などのツールも積極的に活用し、学びのスピードを高めています。

02 「主体性がない」のではなく「動く理由」を知りたい

曖昧な指示では、手が止まってしまう事があります。しかし、目的や背景、期待するゴールが明確になると、「自分が何をすべきか」が理解でき、主体的に動きやすくなります。

これまで

この資料まとめておいて

- 目的がわからない
- どこまでやればよいか不明
- 手が止まりやすい

これから

明日の打ち合わせでお客様に説明するため、この資料から重要なポイントを 3 つに整理してほしい

- 目的・背景が明確で納得できる
- 優先すべきポイントがわかる
- 行動しやすく、成果につながる

仕事の内容だけでなく、目的・背景・期待するゴールをセットで伝えることが重要

03 「発言しない」＝「コミュニケーションが苦手」ではない

研修全体の場では発言に慎重でも、少人数の場やグループワークなどでの発言は多く見られます。
受け入れ側は、積極的な発言を求めるだけでなく、発言しやすい環境を作ることで心理的なハードルが下がります。

意見を引き出す 4 ステップ

1 まず自分で考える ▶ 2 ペアで共有する ▶ 3 グループで意見をまとめる ▶ 4 全体へ共有する

04 生成AI時代、「答えを得る力」から「答えを判断する力」へ

AI が情報や回答をすぐに出してくれる時代。重要なのはそれを鵜呑みにせず、自分で判断し、活用する力です。若手にも、この 4 つを意識した指導が有効です。

AIの回答を鵜呑みにしない

まずは疑う姿勢を持つことが大切。

根拠や出典を確認する

情報の裏付けを確認し、信頼性を見極める。

自分の考えと照らし合わせる

自分の経験や知識と比較し、納得できるか検討する。

自分の言葉で説明する

最後は自分の言葉でまとめ、相手に伝える。

若手の強みを伸ばす

受け入れ側に求められる4つのポイント

POINT 01 目的と背景を伝える

「何をするか」だけでなく、「なぜ行うか」「誰のためか」「どんな価値があるか」まで伝えましょう。

POINT 02 小さな成功体験を積ませる

小さな役割から任せ、「自分で考えて行動できた」という経験を積み重ねることで、自信と主体性が育ちます。



POINT 03 挑戦しやすい環境をつくる

失敗を責めず、挑戦を評価する文化をつくりましょう。うまくいかなかった時も、そこから何を学べるかを一緒に考える姿勢が大切です。

POINT 04 具体的なフィードバックを行う

「良かった」で終わらず、良かった行動と次の改善点を具体的に伝えましょう。成長の方向性が明確になり、次の行動につながります。

【編集部まとめ】

「最近の若手は‥‥」から一歩先へ

ヒアリングから見えてきたのは、若手社員の強みは確かに存在するということです。素直さや吸収力、学ぼうとする姿勢は、どの現場でも高く評価されています。
一方で、目的や背景に納得できなかったり、安心して取り組める環境が整っていなかったりすると、行動が止まってしまう事も事実です。若手の行動を促すカギは、「納得していること」「安心して挑戦できること」にあります。



- なぜこの仕事をするのか
- 何を期待しているのか
- どこまでできればよいのか

この3つを丁寧に伝えることが、若手の一歩を後押しします。
新入・若手社員を変えるだけではなく、受け入れる側も育成方法をアップデートする。
それが、これからの組織の成長につながると私たちは考えます。

現場で見えた課題を、自社の育成改善へ

新入社員育成のお悩み、CTC教育サービスにご相談ください

CTC教育サービスでは、新入社員研修に関するお悩みや課題について、
無料でご相談いただけるサービスをご用意しています。

相談例
- 自社の新人研修を見直したい
- 最近の若手社員に合った育成方法を検討したい
- IT人材として必要なスキルを体系的に身につけさせたい

無料相談はこちら

CTC教育サービス 新入社員研修 無料相談室　https://www.school.ctc-g.co.jp/newrecruit/

VCFとVVFで変わる

次のITスタンダード

CTCテクノロジー
人気講師書き下ろしコラム

第３回 （全4回）

VCF/VVF導入・運用におけるポイント

● このコラムはこんな方におすすめ

- VCF/VVFの導入を検討している方
- 設計からデプロイ、初期運用までの重要ポイントを整理したい方
- 導入後の運用・監視のポイントを確認したい方

春号ではVCFとVVFの概要、夏号では主要コンポーネントと活用シナリオを紹介しました。第3回となる秋号では、VCF/VVFの設計からデプロイ、初期運用までのポイントを紹介します。

VCF/VVF導入・運用におけるポイント

VMware Cloud Foundation 9 (VCF 9) は、VMware製品の大規模環境向けのお客様の運用・管理・監視を統合的に効率よく実施できるプライベートクラウドのプラットフォームです。
本ドキュメントは、VMware Cloud Foundation (VCF) 9.0以降およびVMware vSphere Foundation (VVF) 9.0以降の設計からデプロイ・初期運用に至る重要ノウハウをまとめたガイドです。VCF 9 / VVF 9 では共通の新デプロイ手法「VCF Installer」が採用されています。

01　事前計画とワークブックの活用 (Day 0タスク)

- VCFの特性とリソース要件:
  VCFは、大規模環境のお客様に対して、VMware関連製品を効率よく展開・管理できる製品になっています。そのため、多くの管理用の仮想マシンが展開されるため、より多くのリソースが必要となります。
- VCF Planning and Preparation Workbook:
  物理ハードウェアスペックやパラメータの事前確認に活用します。このworkbookを使用して、設定パラメータやリソースサイズなどを事前に確認して設定ミスなどを減らすことが可能です。現在のVVFやVCF環境は従来の4台構成だけでなく最小2台のESXから展開が可能であり、その際の環境のサイズの確認などにも使用できます。

（次ページに続く）

02　設計・サイジングのノウハウ

- 展開モデルの分類: VCF 9 / VVF 9 の設計では、規模や耐障害性に応じて以下の2種類の展開モデルを選択可能です。
  - シンプルモデル
  - 高可用性モデル（VCF AutomationやNSX Managerが3台ずつ展開されます）
- プリンシパルストレージと必要ESX台数: プリンシパルストレージの種類（vSAN または 外部ストレージ）および展開モデル（シンプルモデル / 高可用性モデル）により必要なESX台数が異なります。詳細は vSphere シングルラック クラスタ モデル を参照してください。

プリンシパルストレージ	シンプルモデル	高可用性モデル
vSAN	3 台	4 台
外部ストレージ（NFSv3、FC）	2 台	4 台

- 管理ドメインのリソース要件:
  - » CPU: ライセンス認証とインフラ管理の中核として必須となる「VCF Operations」等に加え、VCF 9 では VCF Automation で 24コアCPU が要求されます。さらに VCF 9.1 では、VCF Management Serviceの展開により、さらに多くのリソースが要求されます。各ESXには十分な物理コア（最低16〜32コア以上）を推奨します。
  - » メモリ: 各ESXに最低 512 GB〜1 TB 推奨。
  - » ストレージ: 最低 15 TB〜24 TB 以上の実効容量を確保し、管理用に十分なリソースバッファを持たせます（オフラインデポ用に約 52 GB 以上の空きも必要）。
  - » プリンシパルストレージ要件: 管理ドメインの基盤となるプリンシパルストレージの種類（vSAN または 外部ストレージ（NFSv3、FC））を適切に選定し、パフォーマンスと容量を確保してください。
- 冗長化モデルの選択: アプライアンス（NSX Managerなど）のデプロイ時に「冗長（3台）」か「非冗長（1台）」を検証・本番要件に合わせて選択します。

03　事前準備（ネットワーク・外部連携・ESX初期設定）

- VCF Installer（仮想マシン）の展開要件: VCF Installerは仮想マシンとして展開されます（仮想マシンファイルはSDDC Managerと共通化されています）。ESXホストや管理ネットワークに直接アクセス可能な場所に配置し、構築プロセス中に必須となるDNS、NTP、ゲートウェイへの通信経路が確保されていることを確認します。

> ポイント
> VCF 9.1の展開ではFQDNの名前は小文字でないと失敗します。（リリースノートの既知の問題より）

- VCF Installer VMの展開先オプション: ① Bring-Up専用のESXi でも構いませんし、② VCF展開用のESXに展開することも可能です。VCF展開用のESXに展開した場合は、VCF Installerは、SDDC Managerとして変換されます。

デポの種類	要件・仕様
1. オンラインデポ	VCF Installer は Broadcom ポータルからダウンロードするためインターネット接続が必要。 ポイント：VCF 9.0 では認証トークンが必要です。VCF 9.1 ではダウンロードサービス ID とアクティベーションコードが必要です。
2. オフラインデポ	VCF Download Tools を使用して事前にバイナリやメタデータをダウンロード。Web サーバーを別途用意し、ダウンロードしたバイナリを配置してそこから VCF Installer に使用させる方式。

（次ページに続く）

04　インストール・展開フェーズ (Bring-Up)

- JSONエクスポートの活用: VCF 9のVCF Installerでは展開前にJSONパラメータをエクスポート可能です。展開に失敗した際や複数のVCF環境を展開する際に、JSONファイルを読み込んで部分的に修正するだけで新規に展開が可能です。

> ポイント
> VCFの管理サービスはデフォルトで内部クラスタ CIDR 198.18.0.0/15を使用します。このネットワークと重複する場合、JSONを修正して 240.0.0.0/15 または 250.0.0.0/15に切り替える必要があります（KB:440541）

- パスワード自動生成と確認: 展開時にVCF関連コンポーネントのパスワードを自動生成することができます。展開完了後、各コンポーネントのパスワード一覧（インベントリ）を確認・管理することが可能です。
- 事前検証（Validate Configuration）の徹底: デプロイ前の構成検証エラーは、エラーが出なくなるまで必ず潰し込んでください。途中で失敗すると数時間かかるデプロイがロールバックになり、やり直しになります。

> ポイント
> 展開されたコンポーネントの通信を保証するものではないため、展開後のコンポーネントでの通信不良などは発見できません。事前にネットワーク自体の正常性を確認します。

- 最新バイナリの確認: デプロイ直前にデポの設定とバイナリ管理画面を開き、ダウンロードステータスが「成功」であることを確認します。
- ブラウンフィールド移行: 既存vSphere 8.xからの変換は、ESX 8.0 U3 / vCenter 8.0 U3a以上のバージョン要件をクリアし、「VCF または vSphere Foundation プラットフォームへの既存の仮想インフラストラクチャの統合」の手順を厳守します。
- 展開後の構成: 展開後にはvSphereクラスタ上にvSAN、HA、DRSが自動的に構成されます。また、分散スイッチ上でのvMotionネットワークも完了した状態となります。プリンシパルストレージとしてvSANを選択した場合は、vSANクラスタおよびvSANネットワークも構成されます。

05　インストール後の検証と保守 (Day 1 / Day 2タスク)

運用に関する設定は、VCF OperationsにUIが集中されており、効率よく運用監視・ライフサイクルなどを管理できるようになっています。

検証・保守項目	内容・手順
インベントリ・運用監視・ライフサイクル	VCF Operations によるインベントリや健全性ステータス確認、運用監視が可能です。 VCF 9 では 基本的に SDDC Manager の UI は使用せず、VCF Operations の UI を使用します。 **ポイント：管理コンポーネント（VCF コンポーネントなど）とコアコンポーネント（vCenter・ESX・NSX）で設定メニューが分かれており、VCF 全体の管理は管理コンポーネント用のメニューで行います。**
ストレージ	vSAN / 外部ストレージのキャパシティ管理や健全性の状態をチェック
NSX ネットワーク	VCF 9 では、NSX Manager を操作しなくても、vSphere Client で VPC（マルチテナント環境）が簡単に作成できるようになっています。 またワークロードドメインの展開時に、中央集中型接続と分散型接続を選択します。中央集中型接続では、T0 ゲートウェイ（NSX Edge）が展開されるため、VPN や BGP などのプロトコルが使用可能です。分散型接続では T0 ゲートウェイは展開されません。 **ポイント：VCF Automation の使用では、中央集中型接続が必要となります。**

（次ページに続く）

（表 続き）

証明書管理	VCF Operations の UI を使用します。 ポイント：管理コンポーネントとコアコンポーネントで証明書管理（CA 登録）が分かれています。カスタム CA 連携、自己署名証明書からの切り替え、および一元的な証明書ローテーションの実施が可能です。 注意事項：vCenter のルート証明書は、vCenter のメニューでの管理が必要です。
ライセンス管理	VCF Business Services Console (BSC) を活用した管理。VCF 9 では VCF Operations を使用して実施します。また VCF 9.1 では License Server が処理を担当します。インストール直後から 90 日間は評価モードとして動作可能です。展開後 90 日以内にライセンス登録＆割り当てが必要です。
構成ドリフト管理 (Drift Management)	予期せぬ設定変更やバージョン・構成のズレ（ドリフト）を VCF Operations で検知・是正し、管理ドメイン・ワークロードドメイン間のコンプライアンスと一貫性を維持できます。vSphere クラスタと vCenter のドリフトが用意されています。スケジュールで定期的にチェックすることでコンプライアンスと設定の維持が期待できます。
バックアップ・セキュリティ	ファイルベースバックアップ（FBB）の自動化とパスワードローテーションを設定します。 **ポイント：VCF コンポーネントのバックアップは VCF Operations の UI を使用します。但し、vCenter のファイルベースバックアップは、vCenter 管理インターフェイス（または API）から設定および実行します。**

06　推奨される運用・設定プラクティス

VCF 9 / VVF 9 環境を安定稼働させるための重要プラクティスです。

POINT 1｜高精度NTPの徹底: 全コンポーネント間でミリ秒単位の時刻同期を維持し、ログの突合や認証エラー（Kerberos等）、また仮想マシンのスプリットブレインなどの障害を防止。

POINT 2｜アラート通知の最適化: 重要度に応じた通知ルーティングと、計画メンテナンス時のアラーム抑制機能を適切に設定し、不要なアラートノイズを削減して真の障害検知精度を向上。

POINT 3｜バックアップ（FBB）の定期検証: VCFコンポーネントおよびvCenterのファイルベースバックアップ（FBB）の自動取得だけでなく、定期的な検証環境でのリストア演習を実施し、有事の際の復旧手順の確実性を担保。

POINT 4｜自動パスワードローテーション: VCF Operationsによる定期的なパスワード変更を運用に組み込み、セキュリティやコンプライアンス要件を継続的に維持。

まとめ

従来のVMware環境よりも多くのリソースを消費しますが、より大規模環境に対応しただけでなく、効率的な運用・監視が可能な製品となっています。

また運用・監視だけでなく、ESXのメモリ階層化機能や、NSXのVPC作成（マルチテナント環境など）がvSphere Clientで簡単に作成できるなどの機能も拡張されています。

次号予告｜最新インフラ戦略と今後のトレンドを踏まえた展望

冬号では、最新インフラ戦略と今後のトレンドを踏まえ、VCF/VVFの今後を展望します。

著者：盛 洋史
CTC教育サービスがVMware認定トレーニングを開始した当初から現在まで、VMware講師としての確かな技術力と指導力を持つ第一線の認定講師。VMware製品以外のトレーニングも登壇する層の厚さと幅の広さを持つベテラン。見た目は穏やかだが、情熱あふれる講義が人気。

VMware by Broadcom 研修　好評定期開催中！

CTC教育サービスでは、VMware by Broadcom認定トレーニングセンターとして、各種仮想化研修コースを開催しております。VCP-DCV資格取得のための前提コースである「VMware vSphere：Install，Configure，Manage」「VMware vSphere: Operate，Scale and Secure」から上位コースまで、お客さまの目的にあったスキルを習得いただけます。

https://www.school.ctc-g.co.jp/vmware/index.html

お問合せ先

CTCテクノロジー株式会社

ラーニングソリューション営業企画部

〒 105-0004　東京都港区新橋 6-1-1　芝御成門タワー

TEL　0120-667230　（9:00 ～ 12:00 土日祝を除く）　WEB　https://www.school.ctc-g.co.jp/